

中村真一郎 中村武志 中山善郎 西川次郎 西川

野口幸一 羽倉信也 畑農照雄 畑山博 原田和壽

この人この句

各界俳人

三百句

金子兜太編

主婦の友社

平賀敬 福田清人 福田博之 福地泡介 福原百之助

富士真奈美 藤木竹雄 藤波孝生 藤原作弥 本多一基

金子兜太編

工業学院図書館
蔵書章

各界俳人
三百句

主婦の友社

この人この句
各界俳人三百句

平成元年四月二十日 第一刷発行

編者 金子兜太〈検印省略〉

発行者 石川晴彦

発行所 ㊤株式会社 主婦の友社

東京都千代田区神田駿河台二一九 郵便番号一〇・
振替 東京二一八七五二七番
電話（編集）〇三一一九四一一・二一九（販売）〇三一一九四一一・二二二

印刷所 図書印刷株式会社

©Tota Kaneko 1989 Printed in Japan

もし落丁、乱丁、その他不良の品がありましたら、おとりかえいたします。
お近くの書店か、本社へお申してください。

——この人この句——
各界俳人三百句

目次

はじめに	2
新年の部	5
春の部	29
夏の部	63
秋の部	105
冬の部	145
雑の部	183
作者略歴	194

現在、俳句は盛んに行われていますが、その特徴として、俳人が俳句を作っているということだけではなくて、俳人といえないような人までがおおぜい作っていることが挙げられます。僕はこれを「俳句の外に広がっている」といっています。俳人のなかには業俳と遊俳がいますが、その遊俳にも入らないような門外漢が、けっこう俳句を作っているということです。

例えば家庭の主婦であって、しかも専ら俳句を作っている、そういう人ぐらいまでは遊俳です。それよりもさらに外の人、普段は俳句に関係のないことをやっていたり、俳句自体にはそれほど関心や知識がない人たちもいます。だから季語を全然無視して作ったり、即興でとんでもない句を作ったりもします。川柳みたいな、ただ面白いだけの句を作る、というような人がたくさん出てきました。

そういう人たちも含め、幅広く俳句に親しんでおられる方々の句を集めてみたら面白いのではないか、また、思わぬ掘り出し物があつて業俳、遊俳の参考になるんじゃないか、そういう気持ちで財界、政界、芸能界、芸術家、文芸家の人たちが作っている句をいただいてみたところが、けっこう集まりました。

そこで実際に読んでみると、季語がないけれども、面白い句も集まったということで、これを「雑（ぞう）」にしました。「雑」というのは無季の句です。これは昔の歳時記にもあるので、それをそのままもってきて入れたわけです。これはこの本の特徴の一つだと思います。

とてもうまい句やら、ややこしいのやらいろいろあつて、読んでみたいへん面白かった。あまり面白いので、思わず口走ったことを、僭越ながら批評・鑑賞文にしてみました。いろいろ行き過ぎたことをいつているところはお許しください。

題字

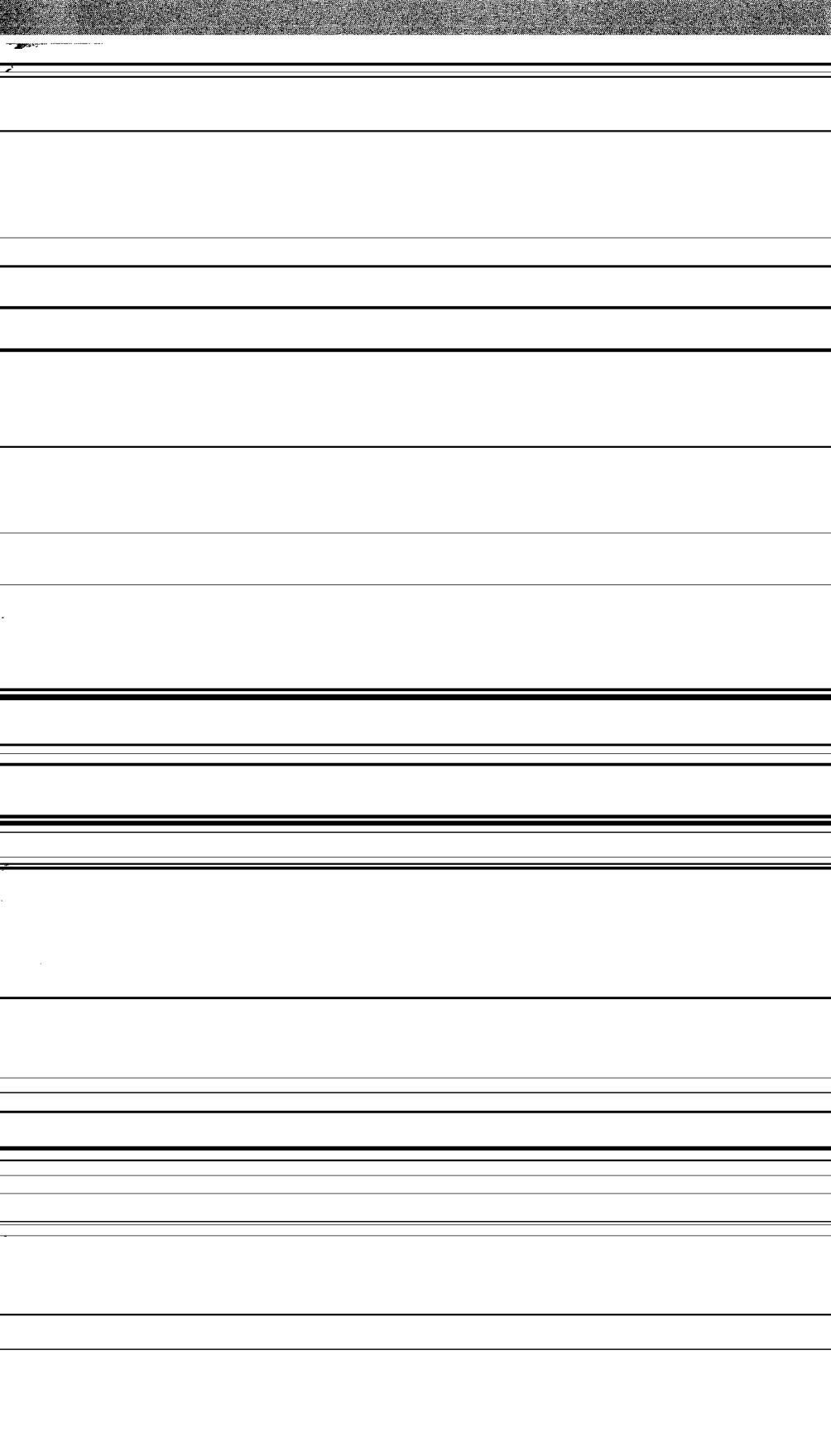
金子兜太

ブックデザイン

E D I (藤城雅彦)

編集

(有)可成屋

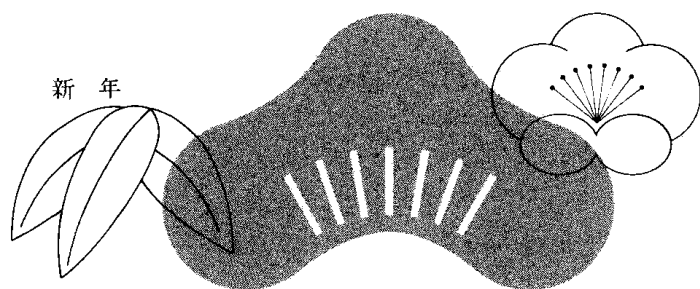


元朝ももの書く我のうとましき

中村真一郎（村樹）

元朝の時計止まれり巻きもせず

中谷孝雄（凡鳥）



去年は大方寝てくらしましたが

元旦や今年や果報を練って待つ

小松方正（呆青）

ゆるくと手足を伸ばす大旦

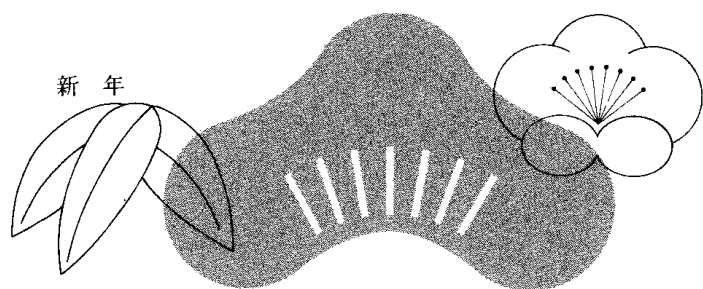
柳家小満ん

神ほとけ邪鬼も和しての年始め

川田 幹（染鬼）

神苑に天地維新の年立てり

藤波孝生（孝堂）



酒徳ある人とすごさん松の内

佐々木久子（柳女）

正月は狂女の髪飾りにも

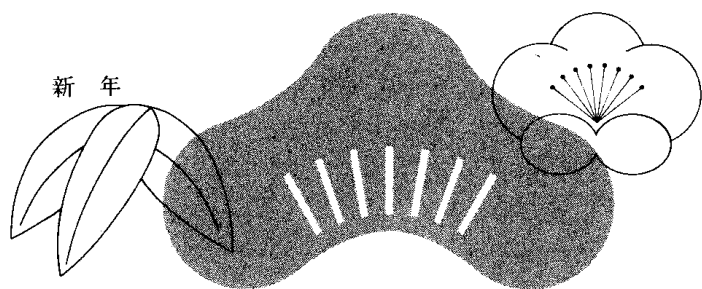
岸田今日子（眠女）

一月や川にみなぎる海のいろ

戸板康二

一合の酒許されて去年今年

福田清人（水青）



旬の味謝して味わい去年今年

辻 嘉一

地球儀がぐるりまわってまた老いる

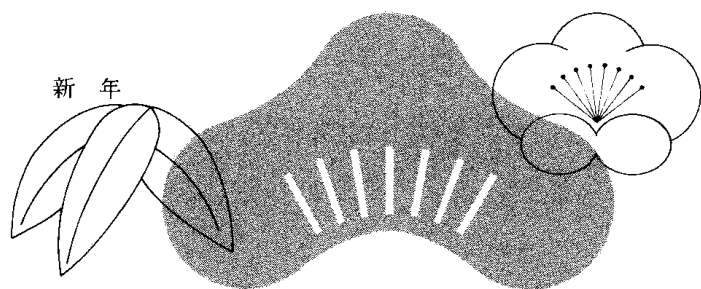
やなせたかし (茫子)

繰越せし去年のしわよせ初あかり

水野精一（青米）

来し方の潮ろろんと初明り

佐江衆一



新 年

松は松石は石にて初日影

中曾根康弘

初空やぼうたんの芽の雪拂ふ

金子鷗亭

荒々と梢を渡る新光

中西進

初詣で綿飴だけが神にみえ

秋山祐徳